

(3) 授業記録

立式をして、既習との違いを見付ける場面

文章問題を読んで各自が立式をした。

S1: 式は、 $8 + 4$ です。

S2: 式は、 $4 + 8$ です。

S3: $4 + 8$ です。わけは、お話では先に4個あ
きたからです。

T: そうだね。お話と合わせて式をつくるんだね。今日は $4 + 8$ だけど、これまで勉強したたし算は、 $9 + 3$ 、 $8 + 3$ 、 $7 + 4$ だね。違いは何だろう。

S4: これまでは前の数が10に近い数だったけれど、今日のは10から遠い数です。

S5: これまでは大きい数が前だったけれど、今日は大きい数が後ろにあります。

T: そうだね。では、今日は新しいことは何かな。

S: 後ろの数が大きい。

T: 今日は、後ろの数が大きいたし算の計算をするよ。
課題を書く。

T: じゃあまずはブロックで考えるよ。まず4個と8個だね。さあどうしたらいいかな。

S(つばやき): まず、と10で

T: 10がよく聞こえてきたよ。10をつくって計算するのかな?

S: そうそう。

T: では、今日はブロックをお話ししながらやるよ。そして、それを式で計算するよ。まとめて一人でやるよ。

本時学習することを明確にするために、前時までの違いを問いかけた。

って、それから8個出て

自分でブロック操作と式をお話ししながらやるように助言した。

考えを交流し、それぞれの方法のよさを見付ける場面

S6: (ブロックを操作しながら) まず、4はあと6で10です。次に、8のうちの6個とります。それから、4と6で10です。だから、10と2で12です。式では、8と6と4に分けます。6と4で10です。だから10と2で12です。

S7: (ブロックを操作しながら) まず、8はあと2で10です。次に4から2個とります。それから2を8と合わせて10で、10と2で12です。式では、8はあと2こで10です。4を2と2に分けます。それから8に2こたして10です。だから、10と2で12です。

T: 整理するよ。これは(S6) 8から6個取って10にしたね。こっちは(S7) 4から2個取って10にしたね。

T: どちらも?

S: 答えは同じ。でも中身が違う。

T: どちらのやり方が簡単かな。

S8: S7の方が簡単です。わけは、S1は6個動かさなければならぬけど、S2は2個だから数えなくてもすぐわかるからです。

S9: S6がいいかということ、お話ははじめに4個と書いてあるからです。

S10: S9さんと同じで、最初に4が出てきているからです。前のとき($9 + 3$)も、先に9が出てきていて、それを10にしたから、これも最初に8の6をとって4と6で10にした方がいいです。

T: それぞれよさがあるんだね。S6(加数分解)の方法は、前の計算の仕方と同じなんだね。S7(被加数分解)の方法は、動かすブロックの数が少なくて済むから簡単なんだね。今日は新しく出てきたS2(被加数分解)の方で計算してみるよ。

それぞれの方法のよさを子どもから引き出すために、どちらが簡単かを問いかけた。

< S1さんが自分の考えを話す様子 >

< S5さんが前の学習とつなげて話す様子 >

どちらの方法にもよさがあることを整理するための助言をした。

学習したことを活用して計算をする場面

時間がなかったため、ペアではなく教師がブロックを操作しながら問題を出し、子どもが右のような式に補助となる数を書きながらお話をして計算をした。

T: じゃあ、 $5 + 8$ はいくつかな。

S: まず、8はあと2で10です。次に、5を2と3に分けます。それから、8と2をたして10です。だから、10と3で13です。

この他に2問同じように教師が問題を出して児童が答える。

5 8 + 13
3 2 10